

# 打楽器

●打楽器は、日本の太鼓をはじめ、オーケストラや吹奏楽の中でよく見かけるものから、「この楽器はどうやって演奏するの?」と思ってしまうようなものまで多種多様です。ここでは小太鼓(スネアドラム)、大太鼓(バスドラム)、ボンゴ、コンガ、カホンの五つを取り上げます。

## 小太鼓(スネアドラム)

ヘッド(鼓面)      リム(フチ)  
ストレイナー

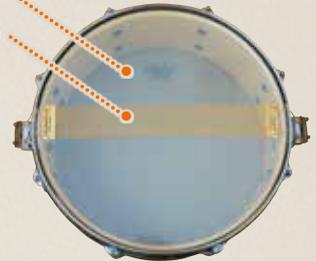


ストレイナーのオンとオフの切り替えて、スネアがヘッドに密着したり離脱したりして、音色(おんしょく)を変えることができます(演奏時以外はオフにしておきます)。



小太鼓はヘッドの中央付近を打つとしっかりとした明確な音が出ます。

裏側のヘッド  
スネア(響き線)



小太鼓の裏側



*p* のときはヘッドのリム寄りを打つなど、打ち方を工夫すると表現の幅が広がります。

## 大太鼓(バスドラム)

ヘッド(鼓面)



大太鼓は前へ出した右足に重心を乗せ、ヘッドの中央付近を打ちます。



残響は左手をヘッドに当てて調節します。



ばちは端を少し余らせて持ちます。

## ボンゴ

ボンゴは小さいほうが左、大きいほうが右になるようにかまえます。



小さいほうは、人さし指と中指の指先(第一関節のあたり)で鼓面のフチを打ちます。



大きいほうは、人さし指と中指の第二関節のあたりで鼓面のフチを打ちます。



小さいほうは、左手の親指以外の指で鼓面を押さえ、響きを調節しながら打つこともあります。

## コンガ

コンガは小さいほうが左、大きいほうが右になるようにかまえます。



左手は、手のひら全体で鼓面を打ちます。また、左手の手首を鼓面に押しつけ、そこを支点にして指先で打つこともあります。



右手は、親指以外の指で鼓面のフチを打ちます。



右手で打つときは、左手を鼓面から浮かせ、よく響く状態にして打つこともあります。

ボンゴとコンガは、これ以外にもさまざまな奏法をういます。

## カホン

カホンはスペイン語で「木の箱」を意味します。基本的には楽器にまたがって打面やフチの部分を直接手で打ちます\*。

持ち運びが比較的容易にできるため、さまざまな場面で使われる打楽器として重宝されるようになってきました。

\*ペルー式カホンの場合。



カホンの裏側



ティンパレス\*: 和田 崇  
コンガ: 小田もゆる  
ボンゴ: 伊波 淑

\* コンガやボンゴなどと一緒<sup>いっしょ</sup>にラテンミュージック(マンボなど)で使われる太鼓<sup>たいこ</sup>。通常はカウベルや、ウッドブロックを加えたセットで用います。